

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成29年12月19日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科

職名・学年 博士課程2年

氏名 兼 重 美 希

助成の種類	平成29年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第47回北米神経科学学会2017		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	The role of the superior colliculus in vibrissa movement		
開催場所	アメリカ・ワシントンD.C.		
渡航期間	平成 29 年 11 月 10 日 ～ 平成 29 年 11 月 17 日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空券	128,281円
		参加登録費	43,500円
		宿泊費	82,661円
上記に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回貴財団の助成を頂くことができ、海外の学会に参加することができました。貴助成の柔軟な使用使途と簡潔な手続きは大変ありがたく、深く感謝致します。		

成果の概要

医学研究科・博士課程2年

兼重 美希

報告者は、本助成を受けて平成 29年11月11日から15日にかけてアメリカ・ワシントンD.C.にて開催された第47回北米神経科学会2017に参加しました。この国際会議は世界各国より毎年約3万人の参加者が集い、1万5千以上の発表が行われる、神経科学分野の最大の学術集会であります。本年も日本国内の学会と比べて非常に多くの演題が発表され、多種多様な視点から行われている研究発表に触れることができ、良い刺激を受けることができました。また、会場には、研究者だけでなく、世界各国の実験および解析機器の企業や出版社のブースが出展されており、活気にあふれていました。

報告者は、ラットのヒゲシステムを題材として、運動制御における上丘の役割を明らかにするための研究を行っています。今回は、「**The role of the superior colliculus in vibrissa movement**」という表題でポスター発表を行いました。この研究発表は、損傷動物の運動解析と形態解析を組み合わせることによって、覚醒下の動物を用いて、上丘がヒゲ運動制御に関与する様式を明らかにしたという内容になります。げっ歯類のヒゲを題材とした研究は、国内での普及が遅れており、日本で同じ題材を扱う研究者は極めて少ないのが現状です。しかし、海外ではヒゲの運動システムを用いて研究を行う研究者が多数いる上に、**Nature**、**Science** を始めとしたトップクラスの雑誌に頻繁に論文が掲載されているホットな題材になります。報告者のポスターにも、げっ歯類のヒゲを題材に研究を行っている研究者が発表を聞きにきてくださいました。近年報告された論文の知見を踏まえた上で、報告者の研究結果に対する意見をくださったため、とても有意義な時間となりました。また、同じ題材で研究を行っていなかったとしても、げっ歯類のヒゲや上丘、実験手法等に関心を持って、報告者の発表内容を聞きにきてくださり議論が行えたことで、自身の研究を広い視点でとらえ直す機会になりました。

本国際会議は、国内で行われる会議と比べてとても規模の大きい会議であるため、報告者自身も、様々な手法、題材を用いた研究に触れることができ、面白いと感じる研究に多く出会いました。新規性、完全性の高い研究発表を眼にして、世界のレベルを知ることが出来たことは、報告者の今後の研究内容を見つめ直し、社会的意義やその利益についても再考、再認識する機会となったと感じています。また、海外の研究者の研究発表は、英語が堪能であることだけでなく、おそらく国民性の違いもあり、全般的に発表者と聴衆がコミュニケーションを多くとること、自分の研究の面白さを伝えようとする気持ちのこもった発表であることを感じました。自分の研究に対する熱い思いが伝わる魅力的な発表に出会えたことも、自身の研究発表の仕方を見つめ直すきっかけになったと思います。

【謝辞】

この度、京都大学教育研究振興財団の助成を頂くことができ、海外で行われる国際学会に参加することができました。自身にとって、国際学会の発表は初めてであり、出身、専門分野が様々な研究者の研究に触れることが出来たことは、大変学ぶことの多い貴重な経験となりました。今後、今回の経験を活かし、更なる自己研鑽に努めてまいりたいと思います。貴財団の御支援があったことが本当に大

きな助けとなりました。温かい御支援賜りましたこと改めて御礼申し上げます。